

## 鉄道高架橋の構造・基礎形式が地震後の角折れ等に及ぼす影響

神田政幸 出羽利行 舘山勝 谷口善則

鉄道の橋梁や高架橋の構造物間の不同変位量は角折れ・目違いと称し、構造物の設計・施工や供用中の維持管理において重要な指標となる。一般に、角折れ・目違いは構造物基礎の不同沈下に起因することが多く、角折れ・目違いと基礎の支持特性との関係等を実測データに基づき明らかにすることの意味は大きい。特に最近の新設線では、保守軽減を目的とした省力化軌道の敷設が多いことに加えて、既設線においても速度向上が図られる場合や乗り心地の観点からも角折れ・目違いを抑制することは益々重要となっている。本報告では、比較的長期の年数が経過し、調査直前に地震を経験した鉄道の橋梁や高架橋に着目し、角折れの他、不同沈下量を調べ、高架橋の構造形式、基礎の支持形式との関係等を明らかにすることを目的として、実構造物の水準測量及び得られた結果のデータ分析を実施した(図)。

(鉄道総研報告, 2010年7月号)

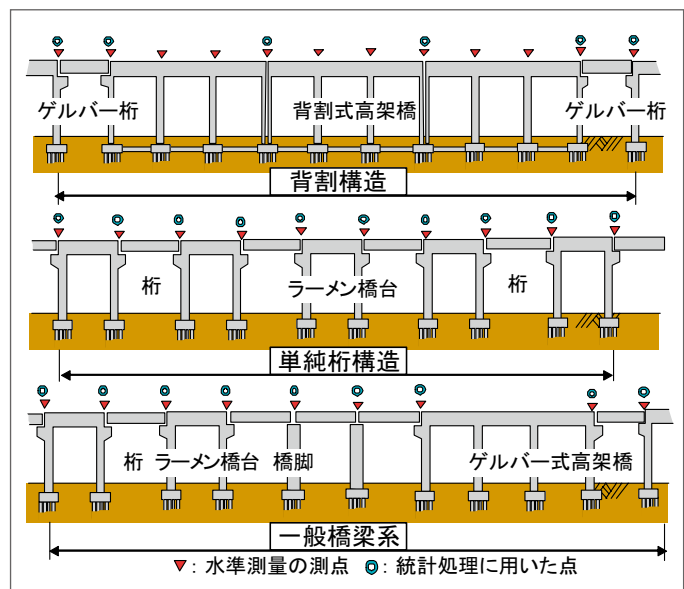


図 高架橋の構造形式と実施した水準測量位置の関係